



各種講座

苫小牧市男女平等参画情報誌

# ふりむ

2025.03 Vol.34



啓発活動



サークル活動



発行日：令和7年3月

発行：苫小牧市男女平等参画推進センター  
指定管理者：社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会  
〒053-0021 苫小牧市若草町3丁目3番8号  
苫小牧市民活動センター4階  
TEL 0144-32-3544 FAX 0144-37-2223  
Eメール：danjo00@tomakomai-shakyo.or.jp  
ホームページ：http://www.tomakomai-shakyo.or.jp

特定非営利活動法人ウィメンズ結 共催 女性の人権講演会

# 「男尊女卑依存症社会を考える」 —性暴力やDVを生み出す社会とは？—

■開催日時 令和6年9月28日(土)13:30~15:30  
■出席者 75名

講師 大船榎本クリニック 精神保健福祉部長  
齊藤 章佳 氏  
(精神保健福祉士 / 社会福祉士)

男女平等参画を推進するために、性別役割分担意識の解消は大きな課題のひとつです。男尊女卑の価値観に基づいた「男らしさ」や「女らしさ」というジェンダー役割に多くの人が過剰に適用し「依存」しているのではないかという視点をお持ちの講師から、女性のみならず男性も被害に遭いその後の人生において深刻な影響を及ぼす性犯罪や、DV 加害者更生に取り組む臨床現場から見た日本の根深いジェンダー観と「依存症」について学びました。



## 齊藤章佳先生著書(一部紹介)

### 『男尊女卑依存症社会』

小島慶子さん、推薦!

ついに解明された国民病。男性に重い下駄を履かせて死ぬまで働かせ、女性には報われないケア労働を押し付けてきた日本。男も女も苦しい社会を変えるために、しんどいあなたが楽になるために、必読の書です。 亜紀書房より(6/21 発売)



### 『男が痴漢になる理由』

痴漢への認識を覆す

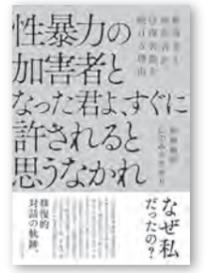
・性欲が強すぎるから？  
・非モテ男子だから？  
・世の中には「痴漢OK 子ちゃん」がいるはず？  
・セックスレスだったから？  
・親の育て方に問題があったから？ 「イーストプレス」2017より



### 『性暴力の加害者となった君よ、すぐに許されると思うなかれ』

加害者は被害者のことを知らない

彼らが自らの加害行為の責任に向き合うためには、性被害者の「その後」を知る必要がある。そんなとき、当事者のにのみやさりと出会う。にのみやは、齊藤に単刀直入に言った。「私は加害者と対話したいのです」そこから始まった、前代未聞の修復的対話(はじめにより)。



## 受講者の声

- 「男尊女卑に基づいた家父長制が長く続いていた日本社会の中で、性暴力や、DV が生み出されてきたことを強く感じました。憲法 13 条の人権尊厳 14 条の法の下での平等 24 条の家の中での平等が守られていないと感じています。せつかくの憲法を自分の暮らしの中に生かしていくことの大切さを感じました。
- 男尊女卑は人間の根底にある様な気がします。根底にあっても正しい知識を学ぶ機会があり、教育を受けることができたなら傷付け合わない社会が少しでも広がるのかなと思いました。寅ちゃんのようにあきらめずに戦う勇気を持って生きたいと思いました。子育てをやり直したいです。
- 子供の頃からのジェンダー・バイアスの刷り込みは、本当に両性にとって、とてもやっかいで、生きづらさを抱える原因にもなっているなと再認識しました。私も私の周りにも、『こうあるべき』に苦しんでいる人が沢山いるので、勉強になりました。日本社会の中から性暴力やDV がなくなる事が願いです。

- 痴漢をする人は相手を「物」としてしか見ていないという事は驚きでした。盗撮も、携帯で、子どもが人に許可をとらずに撮っていたりしているのを見ると、マナーを教えてもらってないのかなと思っていましたが、「小さいときから親がネットにUPしているから、何が悪いかわからない」というのを聞いて、なるほどなと思いました。自分の中の痛みを大切にすることが相手の痛みも大事にできるというのは、すべての人にいえることだと思うので、私も子供に伝えていきたいです。
- 改めて男尊女卑の思考が自分にもあると思われました。また、加害者側の心理を単に軽蔑していましたが、加害者も作られた側面があるのだと考えさせられました。

(一社) にじいろほっかいどう & 苫小牧市男女平等参画推進センター共催

# 令和6年度男女平等参画推進・LGBT Q 講座「苫小牧にじいろライブ vol.5」 トランスジェンダーの「これってホント？」 ～みんながすごしやすい社会を考えるヒント～

■開催日時 令和6年11月2日(土) 14:00~16:00  
■出席者 16名  
講師 一般社団法人 にじいろほっかいどう  
事務局長 さ나다 あさひ 真田 陽 氏

LGBT についての関心が高まる一方で「男が女風呂に入ってくる」「女性スペースが侵されて性犯罪が増える」などの思い込みや偏見からトランスジェンダーバッシングが激しくなっています。「トランスジェンダー」とはどういった人たちなのかを知り、よく出る疑問や噂について、正確な情報を学ぶことが「みんな」がすごしやすい社会につながるのだと考えました。にじいろライブ Vol.5 では北海道に暮らす LGBTQ+ (性的マイノリティ) 当事者への差別や偏見、社会的な孤立をなくすため様々な活動を道内各地で行っている「一般社団法人にじいろほっかいどう」事務局長の真田 陽さんに御講演をいただきました。

(講演内容を一部抜粋)

- トランスジェンダーってどんな人たち？  
最近では出生時に割り当てられた性別と自分が自認する性別が違う人と説明されています。
- トイレはどっちに入るの？  
戸籍の性別とは違うトイレに入るのは犯罪じゃないの？性犯罪が増えるんじゃないの？という声もありますが、トイレは「社会生活上の性別」(外見)で利用されています。そのため、戸籍の性別と異なるトイレを利用することが違法なわけではありません。ですが現在は、トランスジェンダーや「その性別らしい外見」だと判断されにくい人にとって使いづらい現状です。また、多くのトランスジェンダーは、自身の性別移行の状況や環境・人間関係に応じてトイレを選ばざるを得ない状況にあります。そのため、今後大切なのは、性別問わずアクセスできるトイレや、より安全・安心に利用できるトイレを増やしていくことであると考えます。
- 温泉はどうしているの？  
トランスジェンダーの権利を認めたら、男性器があるトランスジェンダーが女風呂に入ってくるのでは？という声もありますが、公衆浴場については厚生労働省の衛生管理要領より『身体的特徴による区別』と明確な決まりがあります。そもそも性別違和感から他者と同じ更衣室や公衆浴場を利用する事に抵抗がある当事者の方が多く、他の利用者とのトラブルやリスクを考え、公衆浴場や温泉の利用を避ける(利用したくてもで

きない) 当事者も多いです。今後は児童生徒が多く利用する公共施設や災害時の入浴施設において、個別に利用できる更衣室や浴室・シャワー室の設置が急務であると考えます。

●みんながすごしやすい社会にするために  
「これはなんのためにあるのだろう?」「これによって取りこぼされる人はどんな人だろう?」「その人たちも包摂できる方法や工夫は何だろう?」と順序立てて考える事が大切だと感じます。新しい課題が出てくるのは当たり前だと思います。それでも、すべての人を包み込める社会のあり方を考え続けることが大切であり、「一人ひとりが生きたいように生きられる」「一人ひとりが幸せに生きられる」「一人ひとりの幸せな生き方を支え合える」そんな社会を目指して、これからも一緒に考え続けてくれたら嬉しいです。

## 受講者の声

- LGBTQ の話は初めて聞きました。本は色々読んだのですが実際の話聞いて良かったです。
- 今日はありがとうございました。とても分かりやすくトランスジェンダーのことを基本から説明して下さって、何故今こんなにもトランスジェンダー女性がバッシング、差別にあっているのが理解できました。視えないものへの恐怖が現在は先行しているようですが、冷静に考えれば恐れるような社会にならないのになあと常に思っています。
- 当事者の方の生きづらさを生の声で聞いて良かったです。



## 苫小牧LGBTsの交流ひろば「ほると」

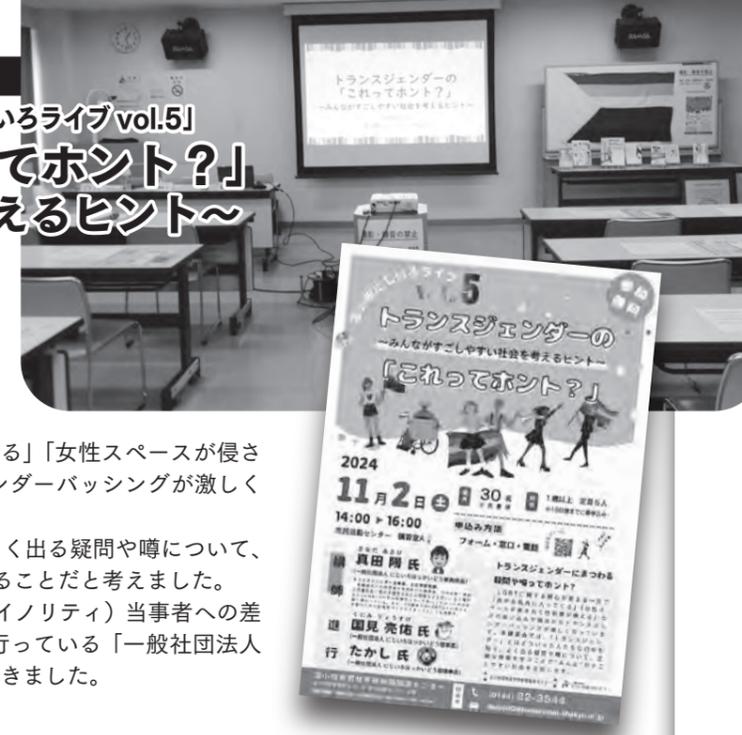
(一社) にじいろほっかいどうとの共催で開催している、LGBTQ+ (性的マイノリティ) 当事者のための交流イベントです。当事者、または当事者かもしれないと思う方はだれでも参加できます。また、当事者とその家族、当事者とそのパートナーでの参加も可能です。

開催日 R7 4/5・5/31・7/26  
10/4・12/6・R8 1/31  
※変動あり  
\*参加は無料です。事前申込が必要です。

申込みフォーム



にじいろほっかいどう 男女平等参画推進センター



# ～多様な視点を活かし 災害対応力を強化する～

災害が発生すると、普段から弱い立場にある方がその影響を多く受けます。あらゆる方々の災害リスクを軽減するためには様々な場面で、多様な視点が反映されていることが重要です。自助・共助などの災害対応力の強化、日常から誰もが生きやすい社会を目指す男女平等参画の推進が必要不可欠であることを理解し実践（近所や地域に広めることも含む。）に結び付けていくことを防災の観点から学びました。

- 第1回目 令和6年7月6日(土) 13:30～16:00 (オンライン)
- 講義 「能登半島地震から考える私たちの防災～多様な視点を活かし災害対応力を強化する～」  
一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内世喜子氏
- 第2回目 令和6年7月20日(土) 13:30～16:00
- 講義 「今こそ必要だ！多様な視点が全てのカギとなる！」  
独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子氏



小山内世喜子氏  
プロフィール

1995年第4回世界女性会議 NGO フォーラムに参加。  
以後、男女共同参画社会づくりに取り組む。2007年から青森県男女共同参画センターを指定管理者として運営、副館長や館長を務める。2017年から現職。  
東日本大震災以降「防災と男女共同参画」をテーマに防災人材育成研修やジェンダー視点を取り入れた防災教育、避難所運営訓練を市民・若年層・行政職員などのべ3万人以上を対象に全国で実施。参加者の主体性を尊重した「誰一人取り残さない」地域づくりにも貢献。令和6年1月の能登半島地震以降、6回にわたって被災地穴水町などの被災者支援に入る。  
第5回ジャパン SDGs アワードにて「特別賞」受賞。国（内閣府、文部科学省）の有識者会議委員も務める。青森市在住。

## 能登半島地震

### 被災者支援から見えてきたこと

- (自助) ▶ 一人ひとりが3日間生きのびる備え  
・食料・水・保温・トイレ（凝固剤）
- (共助) ▶ 避難生活は共同生活・助け合い・互いを尊重する  
・高齢者などでも自分でできることは自分です
- (公助) ▶ 避難所開設・運営について全職員が学び・訓練しよう  
・被災者の立場に立って、物事を考えよう（想像力を持つ）

- ▶ 女性のリーダーがいる避難所はみんなが助け合い、一人ひとりが尊重され明るい避難所  
・地域ごとに避難した避難所は、ヒエラルキー（階層的構想）で形成され、閉鎖的傾向があった。  
・さまざまな地域から避難してきた人たちが構成された避難所は、みんなで協力しながら助け合っていた。
- ▶ ファシリテーション力・コミュニケーション力  
・第3者が入ることの必要性：緩和剤

- ▶ 行政と民間が両輪で
- ▶ 平時にできないことは災害時は、なお更できない
- ▶ ジェンダー視点からの避難所づくり・事前準備

災害時のために” 平常時からのジェンダー平等・多様性のある地域づくり” を!

- ▶ 苫小牧市における避難所の備えと防災ハンドブック活用等  
・～非常持ち出し品と備蓄品～
- ▶ 大切なものを守るための自助  
・災害が起きてからでは遅いことを考え、家族や地域、自分の大切なものを守るためには普段から、自分で備えることが大事です。

## 普段からの備えが大切

# 一人ひとりの普段からの意識と 教訓を踏まえもしもの時への準備が大切です。

今後の課題は？

- ・防災会議、自治会等の意思決定に女性が参画していない
- ・避難所、仮設住宅等の運営に女性が参画できていない
- ・避難所等のリーダーが男性で、震災対応に女性の視点が入らずニーズや安全への配慮が不足
- ・地域の復興計画づくりへの女性の参画が不十分
- ・固定的な性別役割・ジェンダーバイアスの顕在化と強化
- ◇ 炊き出し、家事、育児、介護、看護などのケア労働は女性
- ◇ 復興資源（雇用・義援金など）へのアクセスの男女の不平等

# 今こそ必要だ！多様な視点が全てのカギとなる！

## “誰一人とり残されない” 災害・減災・復興に強い 地域づくりを目指して

大災害は発生した直後

「そこにいる人」で対応する  
しかないのです。

普段から意識も準備も不足が原因で起こるかわからない災害に

## 東日本大震災

### “誰一人とり残されない” 災害・減災・復興に強い 地域づくりをめざして

社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）が性差別、性別による固定的性別分担、偏見、排除等につながっている場合がありこれらが社会的につくられたものであることを意識していこうとする視点

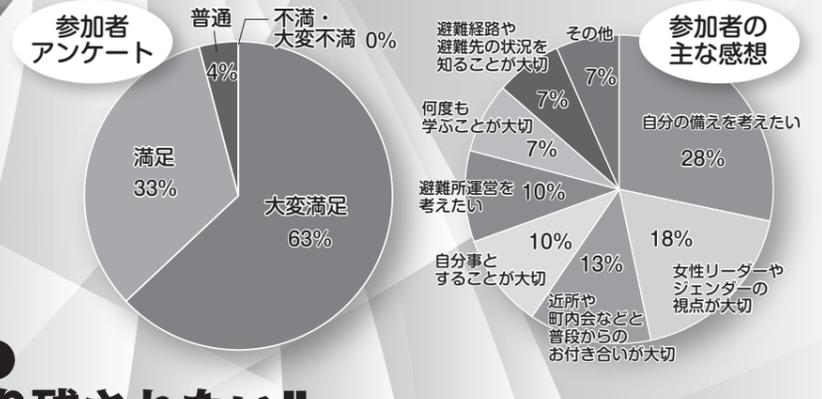
- ▶ 固定的性別分業の解消、地域・政治への参画、発言権
- ▶ ジェンダーの視点の欠如は阪神淡路大震災で大きな問題として浮上

▶ 一通の友人のメールから始まった私の女性支援  
・登米市では、津波により被災された方約1,000人の集団避難を、11か所の避難所で受け入れ、女性の方々に今困っていることなどのお話をお聞きしました。そうしたところ、声に出せない声を聞くことができ、男性では気づかない、被災者の女性が男性の自治体職員に言い出しにくいものばかりです。

- ▶ すぐに女性たちを組織化して!
- ・女性のニーズは生活者のニーズ→多種多様なニーズ  
間仕切り、トイレ、入浴、更衣室、寝食、子供のための空間
- ・女性のニーズはケアを必要とする人たちのニーズ  
生理用品、紙おむつ、ミルク、アレルギー食、介護用品など
- ・女性のニーズは生きる力を回復するためのニーズ  
職探し、買い物にいくために、せめて口紅だけでも・・・

## ～災害時におけるジェンダーの課題～

- ・避難所の運営において、女性や多様な人々のニーズが十分に把握されていなかった
- ・避難所における炊き出しなどの労働は、主に女性が、長時間にわたり無償で担っていた
- ・震災の影響のみならず家族・親族のケアのために出勤できず失職した女性がみられた
- ◇ 全ての課題に徹底していたことは、無償ケア労働の女性への著しい偏り
- ◇ 女性の無償ケア労働負担を「当たり前」とする平常時からの固定的性別役割分業意識



萩原 なつ子氏  
プロフィール

お茶の水女子大学大学院修士課程修了。博士（学術）。  
（財）トヨタ財団アソシエイト・プログラムオフィサー、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学助教授、立教大学教授等を経て2022年4月より現職。また、立教大学名誉教授、NPO 法人日本 NPO センター代表理事、中央教育審議会委員を務める他兵庫県豊岡市ジェンダー・ギャップ対策室地域啓発アドバイザー、山梨県男女共同参画統括アドバイザー等、地域の男女共同参画推進にも尽力している。

# 建築板金技能士に3人合格!

これまで男性の職種と言われていた建設業ですが、「建築板金技能士」に胆振管内では初となる女性3人が合格しました。

- 1級 藤谷優由さん (有限会社 三昇)
- 2級 岩淵琴美さん、庭田鈴音さん (株式会社 サトウ工業)

昨年12月3日に、苫小牧金属板工業協同組合(梨木理事長)が「男性女性関係なく現場を担う方が増えるきっかけになれば」と苫小牧地域職業訓練センターにて報告会を行いました。片原同センター長から情報を頂き、男女平等参画推進センター職員も取材に行きました。



「なぜ、建設業の現場に女性が少ないのかな?」

- ・重労働で危険を伴う仕事だから
- ・女性は理数系が不得意だから
- ・女性は機械操作が不得意だから
- ・男性の職種、職場だから など

本当にそうでしょうか? その考え、思い込みではないですか?...

藤谷さん: 最初持てなかった重い物もだんだん持てるようになりました。女性でも活躍できる職業だと思います。

庭田さん: 会社のみならず資格を取っていること、同僚女性の仲間として目指したいと思いました。

岩淵さん: 板金は楽しいので、資格を取得して続けようと思いました。



## 取材をしてみよう

会社の業務以外にも、家事や子育てしながら資格を取得することは大変だったと思いますが、建築板金技能士の女性のファーストペンギンとして先頭を切って飛び込み、合格されたことは素晴らしいことだと思います。みなさんが口を揃えて言われたこ

とは、職場や家族のサポートでした。まだまだ多くの職業が性別で分けられています。社会全体で思い込みを払拭し、必要なところへは支援することにより、どの職種においても、性別で諦めない仕事の選択ができる社会になったら良いですね。

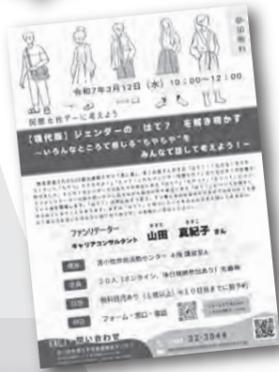
# はて? セミナー

国際女性デーに考えよう 【現代版】ジェンダーの「はて?」を解き明かす  
~いろんなところで感じる“もやもや”をみんなで話して考えよう~

開催日時 令和7年3月12日(水)10:00~12:00

昨年放送されたNHK朝の連続ドラマ「虎に翼」多くの皆さんが「その『はて?』わかる!」「そうそう!そこに『もやっ』とするのよ!」「『えっ?!』これもジェンダー問題なの?」などなど多くの反響を呼びました。そこで!当センターでは私たちの身近にある「はて?」「もやっ?」「えっ?!」についてファシリテーターの話や問いかけに答えながら自分の中や身近にある「はて?」についてお話をしていく会を開催しました。当たり前だと思っていたことにふと感じる「はて?」の中にはそう思う、そう感じるの自分だけなのではないかとあきらめてしまうこともあったり気づかないうちに当たり前縛られ、生きづらさを感じていたり、そんな身近な「はて?」の話を肩の力を抜きながらみんなで考え話しあう会となりました

※この【現代版】ジェンダーの「はて?」を解き明かすは今後も継続して参ります。気になった方はぜひお気軽にご参加お待ちしております。



## 図書室利用案内



- マルチスペース有り
- キッズコーナー有り
- Wi-Fi 完備
- セルフドリンク 有料
- コピー機有り 有料

### ◆4階 図書資料室 利用案内

時間 平日9:00~21:00 土曜9:00~17:00

4階図書資料室では、独立行政法人国立女性教育会館(通称:NWECヌエック)から、ジェンダー、キャリア、こころとからだ等のテーマでパッケージされた80冊をお借りし、来館される皆様へ貸出閲覧しております。その他、雑誌・児童書・実用書・文芸書等を揃えております。ご興味ある方はぜひお立ち寄り下さい。運命の1冊に出会えるかもしれません。

どなたでも自由にご利用いただけます♪

令和7年度事業

# 男女平等参画推進相談事業

無料

## 「弁護士による無料法律相談」

- 実施日時 ▶ 1回目 7月16日(水) 18:00~20:00
- 2回目 11月19日(水) 18:00~20:00
- 3回目 3月17日(火) 13:30~16:00

- 担当弁護士 ▶ 竹田 美由紀 弁護士(とまこまい総合法律事務所)
- 会場 ▶ 市民活動センター4階 講習室A
- 対象 ▶ 市内に居住又は勤務する方 人数 ▶ 1・2回目は各5人、3回目は7人
- 相談時間 ▶ 1人あたり20分以内※人数、相談時間は実施状況により変更あり

- 募集方法 ▶ 実施月の「広報とまこまい」に掲載
- 受付方法 ▶ 電話受付による先着順予約制

## 女性のための生き方・働き方・起業相談

- ✓挑戦したいことはあるけど 何から始めたら良いかな...
- ✓私のやりたいことってシゴトになるのかな...
- ✓やりたいことがアレコレいっぱい...

令和7年度開催予定日  
4/15(水)、5/9(金)、6/17(火)  
7/7(日)、8/5(水)、9/29(日)、10/21(火)  
11/18(土)、12/9(土)、1/13(火)  
2/9(月)、3/3(火)  
各日:10時・11時・13時・14時・15時

お気軽にご相談ください。女性起業支援コンシェルジュがあなたのチャレンジに寄り添います。毎月、常駐日を設定しています。また常駐日にご都合がつかない場合でもお問合せください。日時を調整の上、相談日を決定します。相談時間は1回約1時間です。詳しくはホームページ・Facebookをご覧ください。電話・窓口にてお尋ねください。

## どんなことでもお気軽にご相談ください 相談窓口一覧

相談内容	相談機関	電話番号	相談時間
一般相談	苫小牧市男女平等参画推進センター (市民活動センター4階)	0144-32-3544	平日8:45~17:15 [年末年始を除く]
	苫小牧市社会福祉協議会 (市民活動センター1階)	0144-32-7111	平日8:45~17:15 [年末年始を除く]
	一般社団法人ネットワーク苫小牧	0144-32-3610	毎月第2木曜日10:00~14:00
配偶者等からの暴力 (DV・デートDV)	苫小牧警察署 (命に係るなど、緊急性が高い場合)	110番	0144-35-0110 (24時間対応)
	ウィメンズ結 (民間シェルター)	0144-32-0100	平日10:00~16:00 [年末年始を除く]
	道立女性相談支援センター (配偶者暴力相談支援センター)	011-666-9955	平日9:00~17:00 [年末年始を除く]
性暴力	性暴力被害者支援センター北海道 SACRACH さくらこ	050-3786-0799	平日10:00~20:00 [年末年始を除く]
	性犯罪被害 110番 (性犯罪被害相談窓口)	#8103 (24時間対応)	
雇用問題	苫小牧総合労働相談コーナー	0144-88-8898	平日8:30~17:15 [年末年始を除く]
セクハラ等	北海道労働局雇用環境・均等部 指導課	011-709-2715	平日9:00~17:00 [年末年始を除く]

## 施設ご利用案内 ☎32-3544

- ・受付開始は使用予定日の属する月の6か月前から
- ・社会福祉活動又は男女平等参画推進活動以外は使用予定日の属する月の3か月前から前日までに申請。
- 利用対象 市内に在住・在学・勤務する方
- 利用方法 受付窓口にて所定の申込用紙に記入 ※電話では空室確認のみの対応になります。
- 受付時間 8時45分~20時30分 (土曜17時以降・日曜・祝日・年末年始を除く)

使用料の区分	午前9時~12時	午後13時~17時	夜間18時~21時	1日:9時~21時
料理実習室	1,100円	1,200円	1,300円	3,050円
講習室A (2区分1室使用の場合)	900円 (450円)	1,000円 (500円)	1,100円 (550円)	2,550円 (1,270円)
講習室B 美術工芸室、交流学习室	900円	1,000円	1,100円	2,550円
茶室、音楽室、陶芸室、研修室	800円	900円	1,000円	2,300円
和室1・2、プレイルーム	400円	450円	500円	1,150円

※下記のほか、設備・備品使用料及び冬期間暖房料がかかります。 ※入場料を徴収する場合は下記料金の2倍になります。

## ●編集後記

昨年NHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」は、男女平等や多様性についての問題が、表面的のみならず人の深層心理まで描写された番組だったと感じています。重要なキーワードである「はて?」は、何を感じたら思えるのか? 社会の常識に疑問を持ち口にするのは勇気のいることです。しかし、そこに説明や知識があれば自信を持って発せられるかとも思います。地方における人口減少の要因は、若い女性の流出にあり、地方のジェンダーギャップにあるとも言われています。「はて?」と思えること、情報を得られる施設として、当センターの役割はまだまだ続きます。

## 発行日: 令和7年3月

発行: 苫小牧市男女平等参画推進センター  
指定管理者: 社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会  
〒053-0021 苫小牧市若草町3丁目3番8号  
苫小牧市民活動センター4階  
TEL 0144-32-3544 FAX 0144-37-2223  
Eメール: danjo00@tomakomai-shakyo.or.jp  
ホームページ: http://www.tomakomai-shakyo.or.jp

# カクレガ!!

—若者のサードプレイス—

カクレガとは……

24歳までの若者が、「お話」・「ゲーム」・「読書」・「相談」など過ごし方自由な気軽に立ち寄れる居場所（サードプレイス）です。月ごとに助産師の方やイラストレーターの方など様々な分野の専門家（アドバイザー）がいます。

- 対 象 24歳まで（性別不問）
- 開催日時 毎月第一水曜日（変動あり） 16:00～19:00
- 料 金 無料
- 申 込 み 不要（託児利用の場合は10日前までに要連絡）



毎月1回第一水曜日の16時～19時までセンターの5階エレベーターホールを開放し「カクレガ」を実施しています。

毎月第一水曜日 16:00-19:00  
会場 市民活動センター5階 EVホール  
参加費 無料 申込 不要

2025年度のスケジュール

4月2日 水	5月7日 水	6月4日 水
7月2日 水	8月6日 水	9月3日 水
10月1日 水	11月5日 水	12月3日 水
令和6年 1月7日 水	2月4日 水	3月4日 水

—ここでは、なんでも話せる—  
若小牧市男女平等参画推進センター  
TEL:0344-32-3544

働き方は十人十色です。女性が自分らしく自分に合った働き方を見つける等、働き方の支援と交流の環境づくりの場

## 「コワーキングDay!」開催中

どなたでも参加できます。  
無料託児あり

毎月1回（最終月曜日、12月・2月・3月は第3月曜日）、センターの1室を「コワーキングスペース」として開放しています。様々な働き方をしている女性たちが集まり、交流をしたりサポートし合えるコミュニティを楽しく作れる場となっています。



10時から15時45分までは、コンシェルジュが常駐しているので、初めての方も安心してご利用いただけます。

ワークショップの内容がパワーアップ! デザインツールのCanva・Google活用等でお仕事の幅を広げたり、やりたいことをカタチにしていくマインドセットとして自己紹介ワーク・タイプ別対人関係ワークや効率化を目指しています。無料託児が利用できます。子育て中の方はお子さんを預けて、お仕事や交流することができます。



NACHIKO

コワーキングDayはそれぞれ違ったライフステージを持つ女性同士が出会い・繋がれる場所であり、自分はどう生きていきたいのか、自分らしい豊かさを見つけるキッカケの場所でもあります。ぜひお気軽にお越しください。お待ちしております♪

起業のための成長と学びの場

## 『コワーキング@プラス』

起業している方、これから起業しようかなとお考えの方、起業に興味や関心のある方。

一人で抱えがちなキャリア(仕事)に関する悩みはつきません。

「コワーキング@プラス」はそんなお悩みに知識を持った講師からレクチャーを受けて参加者同士で意見交換をしたり、講師の方からフィードバックをいただきながら、いろいろなヒントを得たりできる学びを深めていく対話型のワークショップ「起業にまつわる学び場」です。

仕事だけでなく日常生活の中でも役立つ知識や知恵につながるワークショップでもあります!

→※不定期の開催となっておりますのでHPをご覧ください



若小牧市男女平等参画推進センターでは、様々な講座・セミナー・相談会などをおこなっています。その他にもサークル活動の場として、図書貸出などもご利用できます。お気軽にお問い合わせください。